

## 令和3年度兵庫県教員等の資質向上に関する協議会 主な意見

日時：令和3年11月1日（月）15:00～16:30

場所：兵庫県学校厚生会館大会議室（3階）

### 1 指標に関して

- ①指標7の養成段階の取組例に【特別な支援が必要な障害のある児童生徒等と関わる経験】とあるが、コロナの関係で体験が不足している。コロナ禍ではあるが、大学と学校が十分協議した上で学校での実習やボランティアの受入れを行ってほしい。研修においても、体験不足を考慮して指導してほしい。
- ②アンケートでは、「教員指標は抽象的で、解釈次第で「できる」かどうかは変わってしまうと思う」等の意見が見られる。指標の改善を検討したほうがよい。
- ③指標をどのように自らのキャリアと日々の仕事に反映させていくかが課題である。教員が、今年はこのような指標に注力して伸ばしていきたいといった目標を立て、それを管理職等と共有しながら、期中や期末で振り返りを行う。教員自らPDCAを回しながら、キャリアを積み重ねていければよい。

### 2 研修に関して

- ①課題探究型の授業の導入など、新しい教育課題に対応する力を身に付けるためには、課題解決力を身に付ける研修が必要である。
- ②Web研修について、勤務校の校長や実施側である教育研修所はどのように評価しているのか。
- ③不登校等の児童生徒が自宅でタブレット端末を活用して授業を受けるといふ授業形態を見据えた研修は、どの程度行っているのか。
- ④タブレット端末等の活用が不得意な教員に対するフォローはどのように行っていくのか。
- ⑤大学入学共通テストへの「情報Ⅰ」の追加を受け、情報科教員の確保と指導力の向上を図ってほしい。
- ⑥研修方法について、ケースメソッドを用いる等、受講者が主体的に学び合うような方法を検討してほしい。防災教育では、姫路市の小学校等、実践的な取組をしている学校がある。そのような事例の見える化を進めることも検討してほしい。
- ⑦教員同士の学び合いという点では、校内研修が大きなウエイトを占めている。校内研修と教育委員会や教育研修所での研修の関係を整理してほしい。
- ⑧ICT化に伴い、児童生徒がタブレット端末を扱う時間が増えている。対面

での子ども同士の対話や教員と子どもとの対話についても、研修で押さえていただきたい。

- ⑨学校管理職のなり手が減っている。悉皆研修で学校管理職のやりがいや魅力を伝えてほしい。
- ⑩校内にはハラスメントに関する相談窓口があるが、実際に相談を受けた際、どのように対応してよいか分からないという声がある。研修で取り扱ってほしい。
- ⑪中堅教諭等資質向上研修以降についても、それぞれの世代の課題に応じた研修を充実してほしい。
- ⑫自己管理能力（ストレスマネジメント、アンガーマネジメント）研修、コミュニケーション能力向上の研修を全教職員に実施してほしい。
- ⑬兵庫県に勤務する全ての教職員が公平に平等に研修を受講できるように、研修動画作成時や講演の際に視覚障害や聴覚障害のある教員のための配慮をお願いしたい。

### 3 その他

- ①特別支援学校で教育実習生を受け入れる際、人権意識を培うことの大切さを伝えている。大学でもしっかり学んでほしい。
- ②特別支援学校の新規採用教員の中には、知的障害を対象とする特別支援学校に勤めたいので教科指導はできないという発言をする教員がいる。基礎免許の教科については指導できるようにならなければいけない。
- ③小学校でも発達障害や不登校が増えている中で、共感的コミュニケーションの大切さを教育実習生に話している。指標 25 の養成段階の取組に【相手の心情を共感的に理解しようとする態度】とされているところが素晴らしい。
- ④心の教育総合センター作成のいじめに関する動画や指導案が Web ページで公開されている。カウンセリングマインドにおいても同様に資料を公開することを検討してほしい。
- ⑤教員免許更新制に替わる研修制度の方向性を教えてほしい。免許更新制がなくなっても研修を確保してほしい。
- ⑥教員が学び続けるためにも、多忙な状況の改善を推進してほしい。